

第4号議案

2018～2027年度の連系線の運用容量について

(年間計画・長期計画)

(案)

業務規程第126条第3項、第4項に基づき、運用容量検討会の検討を踏まえ、2018～2027年度の連系線の運用容量（年間計画・長期計画）を算出し、本機関ウェブサイトにて公表する。

公表日：2018年3月1日

以上

【添付資料】

別紙1：2018～2027年度の連系線の運用容量（年間計画・長期計画）

別紙2：ウェブサイト公表文

2018～2027年度の連系線の運用容量 (年間計画・長期計画)

2018年 2月21日

(空白)

I-1. 2018年度の連系線の運用容量（平日：昼間帯）

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線	東北向	35(4)	33(4)	37(4) 【236(①)】	38(4)	32(4)	37(4)	36(4)	38(4)	42(4)	46(4)	46(4)	41(4) 【236(①)】
	東京向	<410(①)> 【385(①)】	<465(①)> 【418(②)】	<420(①)> 【236(①)】	480(①) <553(②)>	540(①) <563(②)>	460(①)	440(①) <450(①)>	455(①) <465(①)>	430(①) <545(①)>	520(①) <540(①)>	515(①) <520(①)>	530(①) 【236(①)】
東京中部間連系設備 (新富津、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(③)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【82(①)】	【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線 注1)	中部向	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)
	関西向	55(4)	58(4)	73(4)	93(4)	95(4)	前半96(4) 後半85(4)	70(4)	前半75(4) 後半78(4)	92(4)	100(4)	92(4)	前半85(4) 後半69(4)
北陸フェンス	北陸 受電向	130(4) 【1(4)】	130(4) 【1(4)】	130(4) 【2(4)】	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)
	北陸 送電向	175(4) 【70(4)】	178(4) 【70(4)】	181(②) 【70(4)】	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)	181(②)	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	130(4) 【31(4)】	130(4) 【31(4)】	130(4) 【32(4)】	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)
	関西向	175(4) 【100(4)】	178(4) 【100(4)】	181(②) 【100(4)】	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)	181(②)	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(③)	390(③) 【329(①)】	390(③) 【329(①)】	415(③)	415(③)	前半415(③) 後半390(③) 【329(①)】	390(③) 【329(①)】	390(③) 【329(①)】	400(③) 【329(①)】	400(③)	400(③)	前半400(③) 後半390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【25(4)】	120(①) 【25(4)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【26(4)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【26(4)】
中国九州間連系線 注1)	中国向	222(4)	217(4)	233(4)	246(4)	237(4)	前半243(4) 後半232(4)	229(4) 【206(4)】	前半235(4) 【208(4)】 後半240(4) 【211(4)】	249(4)	256(4)	269(4)	前半261(4) 後半237(4)
	九州向	3(4)	5(4)	12(4)	20(4)	20(4)	前半22(4) 後半18(4)	11(4)	前半12(4) 後半13(4)	19(4)	18(4)	14(4)	前半11(4) 後半9(4)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
 < >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して毎日に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)
 具体的な毎日の運用容量は系統情報サービス参照
 注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降



I-2. 2018年度の連系線の運用容量（平日：夜間帯）

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線	東北向	28(4)	25(4)	27(4) 【236(①)】	28(4)	24(4)	28(4)	27(4)	30(4)	34(4)	38(4)	39(4)	36(4) 【236(①)】
	東京向	<400(①)> 【375(①)】	<420(①)> 【398(②)】	<420(①)> 【236(①)】	460(①) <508(②)>	543(②) <548(②)>	430(①)	420(①) <430(①)>	420(①) <430(①)>	420(①) <528(①)>	520(①)	510(①) <515(①)>	555(①) 【236(①)】
東京中部間連系設備 (新富津、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(③)】	120(①) 【64(③)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【82(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)
	関西向	90(4)	83(4)	87(4)	99(4)	103(4)	前半105(4) 後半101(4)	97(4)	前半103(4) 後半108(4)	119(4)	129(4)	135(4)	前半125(4) 後半111(4)
北陸フェンス	北陸 受電向	60(4) 【2(4)】	60(4) 【2(4)】	60(4) 【2(4)】	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)
	北陸 送電向	181(②) 【70(4)】	181(②) 【70(4)】	181(②) 【70(4)】	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)	181(②)	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(4) 【32(4)】	60(4) 【32(4)】	60(4) 【32(4)】	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)
	関西向	181(②) 【100(4)】	181(②) 【100(4)】	181(②) 【100(4)】	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)	181(②)	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(③)	390(③) 【329(①)】	390(③) 【329(①)】	415(③)	415(③)	前半415(③) 後半390(③) 【329(①)】	390(③) 【329(①)】	390(③) 【329(①)】	400(③)	400(③)	400(③)	前半400(③) 後半390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【24(4)】	120(①) 【23(4)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【23(4)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【24(4)】
中国九州間連系線 注1)	中国向	200(4)	193(4)	196(4)	204(4)	201(4)	前半203(4) 後半199(4)	193(4)	前半201(4) 【200(4)】 後半207(4) 【201(4)】	219(4)	214(4)	242(4)	前半231(4) 後半212(4)
	九州向	32(4)	29(4)	32(4)	35(4)	36(4)	前半39(4) 後半37(4)	36(4)	前半38(4) 後半39(4)	42(4)	43(4)	44(4)	前半43(4) 後半40(4)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
 < >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して毎日に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)
 具体的な毎日の運用容量は系統情報サービス参照
 注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降



I-3. 2018年度の連系線の運用容量（休日：昼間帯）

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(1)	60(1) [0(1)]	60(1)	60(1)	60(1)	60(1)	60(1) [0(1)]	60(1)	60(1)	60(1) [30(1)]	60(1)	60(1)
	東北向	60(1)	60(1) [0(1)]	60(1)	60(1)	60(1)	60(1)	60(1) [0(1)]	60(1)	60(1)	60(1) [30(1)]	60(1)	60(1)
東北東京間連系線	東北向	30(4)	26(4)	31(4)	33(4)	30(4)	33(4)	31(4)	33(4)	37(4)	34(4)	40(4)	36(4) [236(1)]
	東京向	<410(1)> [385(1)]	<465(1)> [435(1)]	<420(1)> [318(2)]	495(1) <545(3)>	540(1) <563(2)>	460(1) <450(3)>	440(1) <450(1)>	455(1) <465(1)>	510(1) <545(1)>	520(1) <540(1)>	515(1) <520(1)>	430(1) <483(1)> [236(1)]
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(1) [64(3)]	120(1) [64(3)]	120(1) [65(3)]	120(1)	120(1)	120(1)	120(1) [90(1)]	【90(1)】	120(1) [90(1)]	120(1)	120(1)	120(1) [90(1)]
	中部向	120(1) [90(1)]	120(1) [90(1)]	120(1) [90(1)]	120(1)	120(1)	120(1)	120(1) [90(1)]	【90(1)】	120(1) [90(1)]	120(1)	120(1)	120(1) [90(1)]
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4) [20(4)]
	関西向	35(4)	34(4)	44(4) [43(4)]	66(4)	74(4)	前半65(4) 後半57(4)	44(4)	前半50(4) 後半51(4)	74(4)	69(4)	64(4)	前半52(4) 後半45(4) [39(4)]
北陸フェンス	北陸 受電向	60(4) [0(4)]	60(4) [0(4)]	60(4) [0(4)]	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)
	北陸 送電向	138(4) [70(4)]	137(4) [70(4)]	155(4) [70(4)]	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半173(4)	155(4)	前半161(4) 後半163(4)	181(2)	181(2)	178(4)	前半164(4) 後半156(4)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1) [0(1)]	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)
	中部向	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1) [0(1)]	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)
北陸関西間連系線	北陸向	60(4) [30(4)]	60(4) [30(4)]	60(4) [30(4)]	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)
	関西向	138(4) [100(4)]	137(4) [100(4)]	155(4) [100(4)]	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半173(4)	155(4)	前半161(4) 後半163(4)	181(2)	181(2)	178(4)	前半164(4) 後半156(4)
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(3)	390(3) [329(1)]	390(3) [329(1)]	415(3)	415(3)	前半415(3) [370(3)] 後半390(3) [329(1)]	390(3) [329(1)]	390(3) [329(1)]	400(3)	400(3)	400(3)	前半400(3) 後半390(3)
	中国向	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)
関西四国間連系設備	関西向	140(1) [70(1)]	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1) [70(1)]	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1) [70(1)]
	四国向	140(1) [70(1)]	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1) [70(1)]	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1) [70(1)]
中国四国間連系線	中国向	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)
	四国向	120(1) [22(4)]	120(1) [21(4)]	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1) [24(4)]
中国九州間連系線 注1)	中国向	183(4)	178(4)	188(4)	202(4)	208(4)	前半197(4) 後半191(4)	186(4)	前半194(4) 後半199(4)	218(4)	224(4)	218(4)	前半208(4) 後半198(4)
	九州向	0(4)	0(4)	6(4)	13(4)	16(4)	前半14(4) 後半13(4)	6(4)	前半6(4) 後半6(4)	14(4)	13(4)	7(4)	前半4(4) 後半1(4)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
 < >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して毎日に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)
 具体的な日々の運用容量は系統情報サービス参照
 注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

I-4. 2018年度の連系線の運用容量（休日：夜間帯）

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(1)	60(1) [0(1)]	60(1)	60(1)	60(1)	60(1)	60(1) [30(1)]	60(1)	60(1)	60(1)	60(1)	60(1)
	東北向	60(1)	60(1) [0(1)]	60(1)	60(1)	60(1)	60(1)	60(1) [30(1)]	60(1)	60(1)	60(1)	60(1)	60(1)
東北東京間連系線	東北向	28(4)	23(4)	28(4)	28(4)	23(4)	28(4)	27(4)	29(4)	38(4)	36(4)	41(4)	36(4) [236(1)]
	東京向	<400(1)> [375(1)]	<420(1)> [410(1)]	<415(1)> [320(2)]	483(2) <503(2)>	543(2)	430(1) <450(3)>	420(1) <430(1)>	420(1) <430(1)>	425(1) <523(1)>	520(1)	510(1) <515(1)>	450(1) <483(1)> [236(1)]
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(1) [66(3)]	120(1) [66(3)]	120(1) [69(3)]	120(1)	120(1)	120(1)	120(1) [90(1)]	【90(1)】	120(1) [90(1)]	120(1)	120(1)	120(1) [90(1)]
	中部向	120(1) [90(1)]	120(1) [90(1)]	120(1) [90(1)]	120(1)	120(1)	120(1)	120(1) [90(1)]	【90(1)】	120(1) [90(1)]	120(1)	120(1)	120(1) [90(1)]
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)
	関西向	67(4)	59(4)	64(4)	80(4)	84(4)	前半82(4) 後半79(4)	77(4)	前半88(4) 後半92(4)	104(4)	115(4)	110(4)	前半101(4) 後半93(4)
北陸フェンス	北陸 受電向	60(4) [0(4)]	60(4) [0(4)]	60(4) [0(4)]	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)
	北陸 送電向	181(2) [70(4)]	172(4) [70(4)]	180(4) [70(4)]	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)	181(2)	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1) [0(1)]	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)
	中部向	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1) [0(1)]	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)
北陸関西間連系線	北陸向	60(4) [30(4)]	60(4) [30(4)]	60(4) [30(4)]	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)
	関西向	181(2) [100(4)]	172(4) [100(4)]	180(4) [100(4)]	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)	181(2)	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(3)	390(3) [329(1)]	390(3) [329(1)]	415(3)	415(3)	前半415(3) [370(3)] 後半390(3) [329(1)]	390(3) [329(1)]	390(3) [329(1)]	400(3)	400(3)	400(3)	前半400(3) 後半390(3)
	中国向	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)
関西四国間連系設備	関西向	140(1) [70(1)]	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1) [70(1)]	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1) [70(1)]
	四国向	140(1) [70(1)]	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1) [70(1)]	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1) [70(1)]
中国四国間連系線	中国向	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)
	四国向	120(1) [22(4)]	120(1) [20(4)]	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1) [22(4)]	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1) [24(4)]
中国九州間連系線 注1)	中国向	177(4)	171(4)	175(4)	186(4)	190(4)	前半182(4) 後半179(4)	174(4)	前半181(4) 後半187(4)	196(4)	218(4)	208(4)	前半207(4) 後半198(4)
	九州向	26(4)	23(4)	26(4)	31(4)	34(4)	前半33(4) 後半32(4)	33(4)	前半35(4) 後半36(4)	38(4)	40(4)	40(4)	前半39(4) 後半37(4)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
 < >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流通設備等の作業停止を考慮して毎日に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)
 具体的な日々の運用容量は系統情報サービス参照
 注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

II-1. 2019年度の連系線の運用容量（平日：昼間帯）

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(1)	90(1) 【30(1)】	90(1) 【60(1)】	90(1) 【60(1)】	90(1) 【60(1)】	90(1) 【60(1)】	90(1)	90(1) 【30(1)】	90(1)	90(1) 【60(1)】	【60(1)】	【30(1)】
	東北向	90(1)	90(1) 【30(1)】	90(1) 【60(1)】	90(1) 【60(1)】	90(1) 【60(1)】	90(1)	90(1) 【30(1)】	90(1)	90(1)	90(1) 【60(1)】	【60(1)】	【30(1)】
東北東京間連系線	東北向	35(4)	33(4)	35(4) 【236(1)】	38(4)	32(4)	37(4)	36(4)	39(4)	42(4)	46(4)	47(4)	39(4)
	東京向	463(2) <473(2)>	523(2) 【473(2)】	333(2) <353(2)> 【236(1)】	530(1) <538(2)> 【448(2)】	563(2)	510(1) <558(2)>	405(1) <515(1)>	500(1) <535(1)>	535(1) <555(1)>	543(2) 【488(2)】	450(1) <498(2)>	425(1) <545(1)>
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(1) 【60(1)】	120(1) 【60(1)】	120(1) 【90(1)】	120(1)	120(1)	120(1)	120(1) 【60(1)】	120(1) 【60(1)】	120(1) 【60(1)】	120(1)	120(1)	120(1) 【60(1)】
	中部向	120(1) 【60(1)】	120(1) 【60(1)】	120(1) 【90(1)】	120(1)	120(1)	120(1)	120(1) 【60(1)】	120(1) 【60(1)】	120(1) 【60(1)】	120(1)	120(1)	120(1) 【60(1)】
中部関西間連系線 注1)	中部向	250(4)	250(4) 【29(4)】	250(4) 【21(4)】	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)	250(4)
	関西向	57(4)	59(4) 【51(4)】	74(4) 【54(4)】	94(4)	97(4)	前半97(4) 後半87(4)	72(4)	前半76(4) 後半79(4)	93(4)	101(4)	94(4)	前半87(4) 後半70(4)
北陸フェンス	北陸受電向	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)
	北陸送電向	176(4)	179(4)	181(2)	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)	181(2) 【70(4)】	前半181(2) 後半181(2)	181(2)	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1) 【0(1)】	30(1) 【0(1)】	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)
	中部向	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1) 【0(1)】	30(1) 【0(1)】	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)
北陸関西間連系線	北陸向	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4) 【0(4)】	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)	130(4)
	関西向	176(4)	179(4)	181(2)	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)	181(2) 【0(4)】	前半181(2) 後半181(2)	181(2)	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(3) 【305(3)】	390(3) 【380(3)】	390(3)	415(3)	415(3)	前半415(3) 【329(1)】 後半390(3) 【278(1)】	390(3) 【278(1)】	390(3) 【329(1)】	400(3)	400(3)	400(3)	前半400(3) 後半390(3)
	中国向	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)
関西四国間連系設備	関西向	140(1) 【70(1)】	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)
	四国向	140(1) 【70(1)】	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)
中国四国間連系線	中国向	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)
	四国向	120(1) 【25(4)】	120(1) 【25(4)】	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1) 【26(4)】	120(1)	120(1) 【27(4)】	120(1)	120(1)	120(1)
中国九州間連系線 注1)	中国向	222(4) 【176(4)】	217(4) 【119(4)】	233(4)	246(4)	237(4)	前半243(4) 後半232(4)	229(4)	前半236(4) 後半240(4)	249(4)	256(4)	269(4)	前半261(4) 後半237(4)
	九州向	4(4)	7(4)	13(4)	21(4)	21(4)	前半24(4) 後半19(4)	13(4)	前半13(4) 後半14(4)	20(4)	19(4)	15(4)	前半13(4) 後半10(4)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
 < >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流送設備等の作業停止を考慮して毎日に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)
 具体的な日々の運用容量は系統情報サービス参照
 注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

II-2. 2019年度の連系線の運用容量（平日：夜間帯）

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(1)	90(1) 【30(1)】	90(1) 【60(1)】	90(1) 【60(1)】	90(1) 【60(1)】	90(1)	90(1) 【30(1)】	90(1)	90(1)	90(1) 【60(1)】	【60(1)】	【30(1)】
	東北向	90(1)	90(1) 【30(1)】	90(1) 【60(1)】	90(1) 【60(1)】	90(1) 【60(1)】	90(1)	90(1) 【30(1)】	90(1)	90(1)	90(1) 【60(1)】	【60(1)】	【30(1)】
東北東京間連系線	東北向	28(4)	25(4)	26(4) 【236(1)】	28(4)	24(4)	28(4)	27(4)	30(4)	34(4)	38(4)	40(4)	34(4)
	東京向	488(2) <498(2)>	478(2) 【453(2)】	328(2) <348(2)> 【236(1)】	523(2) <528(2)> 【448(2)】	543(2)	515(1) <543(2)>	425(1) <543(2)>	515(1) <543(2)>	540(1) <543(2)>	515(1) 【508(2)】	435(1) <525(1)> 【513(2)】	395(1) <535(1)>
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(1) 【60(1)】	120(1) 【60(1)】	120(1) 【90(1)】	120(1)	120(1)	120(1)	120(1) 【60(1)】	120(1) 【60(1)】	120(1) 【60(1)】	120(1)	120(1)	120(1) 【60(1)】
	中部向	120(1) 【60(1)】	120(1) 【60(1)】	120(1) 【90(1)】	120(1)	120(1)	120(1)	120(1) 【60(1)】	120(1) 【60(1)】	120(1) 【60(1)】	120(1)	120(1)	120(1) 【60(1)】
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)	200(4)
	関西向	91(4)	84(4)	89(4)	100(4)	104(4)	前半107(4) 後半102(4)	98(4)	前半105(4) 後半109(4)	120(4)	130(4)	136(4)	前半126(4) 後半112(4)
北陸フェンス	北陸受電向	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)
	北陸送電向	181(2)	181(2)	181(2)	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)	181(2)	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1) 【0(1)】	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)
	中部向	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1) 【0(1)】	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)
北陸関西間連系線	北陸向	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)	60(4)
	関西向	181(2)	181(2)	181(2)	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)	181(2)	181(2)	181(2)	前半181(2) 後半181(2)
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(3) 【305(3)】	390(3)	390(3)	415(3)	415(3)	前半415(3) 後半390(3)	390(3)	390(3)	400(3)	400(3)	400(3)	前半400(3) 後半390(3)
	中国向	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)
関西四国間連系設備	関西向	140(1) 【70(1)】	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)
	四国向	140(1) 【70(1)】	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)
中国四国間連系線	中国向	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)
	四国向	120(1) 【24(4)】	120(1) 【23(4)】	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1) 【23(4)】	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)
中国九州間連系線 注1)	中国向	200(4) 【170(4)】	193(4) 【113(4)】	196(4)	204(4)	201(4)	前半203(4) 後半199(4)	193(4)	前半202(4) 後半207(4)	219(4)	214(4)	242(4)	前半231(4) 後半213(4)
	九州向	33(4)	30(4)	33(4)	36(4)	38(4)	前半40(4) 後半39(4)	38(4)	前半39(4) 後半40(4)	43(4)	44(4)	45(4)	前半44(4) 後半41(4)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
 < >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流送設備等の作業停止を考慮して毎日に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)
 具体的な日々の運用容量は系統情報サービス参照
 注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

II-3. 2019年度の連系線の運用容量（休日：昼間帯）

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①)	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①)	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
	東北向	90(①)	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①)	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
東北東京間連系線	東北向	30(④)	26(④)	30(④) 【236(①)】	33(④)	30(④)	33(④)	31(④)	33(④)	37(④)	34(④)	40(④)	34(④)
	東京向	463(②) <473(②)>	523(②) <528(②)>	333(②) <353(②)> 【236(①)】	503(①) <538(②)>	563(②)	510(①) <555(①)>	405(①) <495(①)>	500(①)	535(①) <555(①)>	540(①) 【488(②)】	450(①) 【498(②)】	425(①) <550(①)>
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【63(③)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④) 【16(④)】	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	36(④)	35(④)	45(④) 【32(④)】	67(④)	75(④)	前半66(④) 後半59(④)	45(④)	前半51(④) 後半52(④)	75(④)	70(④)	65(④)	前半54(④) 後半47(④)
北陸フェンス	北陸受電向	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	北陸送電向	139(④)	138(④)	157(④)	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半174(④)	156(④)	前半163(④) 後半164(④)	181(②)	181(②)	180(④)	前半166(④) 後半158(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	139(④)	138(④)	157(④)	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半174(④)	156(④)	前半163(④) 後半164(④)	181(②)	181(②)	180(④)	前半166(④) 後半158(④)
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(③)	390(③)	390(③)	415(③)	415(③)	前半415(③) 後半390(③) 【370(③)】	390(③)	390(③) 【329(①)】	400(③)	400(③)	400(③)	前半400(③) 後半390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【22(④)】	120(①) 【21(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注1)	中国向	183(④) 【111(④)】	179(④) 【111(④)】	188(④)	202(④)	208(④)	前半197(④) 後半191(④)	186(④)	前半194(④) 後半199(④)	219(④)	224(④)	219(④)	前半208(④) 後半199(④)
	九州向	0(④)	2(④)	7(④)	15(④)	17(④)	前半15(④) 後半14(④)	7(④)	前半7(④) 後半8(④)	16(④)	14(④)	9(④)	前半5(④) 後半3(④)



()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
 < >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流送設備等の作業停止を考慮して毎日に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)
 具体的な日々の運用容量は系統情報サービス参照
 注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

II-4. 2019年度の連系線の運用容量（休日：夜間帯）

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①)	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
	東北向	90(①)	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
東北東京間連系線	東北向	28(④)	23(④)	26(④) 【236(①)】	28(④)	23(④)	28(④)	27(④)	29(④)	38(④)	36(④)	41(④)	34(④)
	東京向	488(②) <498(②)>	478(②) <483(②)>	328(②) <348(②)> 【236(①)】	503(②) <528(②)>	543(②)	515(①) <543(②)>	425(①) <520(①)>	515(①)	540(①) <543(②)>	515(①) <525(①)> 【508(②)】	435(①) <525(①)> 【513(②)】	395(①) <538(②)>
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【66(③)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線 注1)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	69(④)	60(④)	65(④)	81(④)	85(④)	前半83(④) 後半80(④)	79(④)	前半89(④) 後半93(④)	105(④)	116(④)	111(④)	前半102(④) 後半94(④)
北陸フェンス	北陸受電向	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	北陸送電向	181(②)	173(④)	181(②)	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)	181(②)	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	181(②)	173(④)	181(②)	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)	181(②)	181(②)	181(②)	前半181(②) 後半181(②)
関西中国間連系線 注1)	関西向	390(③)	390(③)	390(③)	415(③)	415(③)	前半415(③) 後半390(③)	390(③)	390(③)	400(③)	400(③)	400(③)	前半400(③) 後半390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【22(④)】	120(①) 【20(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注1)	中国向	177(④) 【110(④)】	171(④) 【109(④)】	175(④)	186(④)	190(④)	前半182(④) 後半179(④)	174(④)	前半181(④) 後半187(④)	196(④)	218(④)	208(④)	前半207(④) 後半198(④)
	九州向	27(④)	25(④)	27(④)	33(④)	35(④)	前半34(④) 後半34(④)	34(④)	前半36(④) 後半37(④)	40(④)	41(④)	41(④)	前半40(④) 後半38(④)



()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。【】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
 < >内の数字は、運用容量の最大を示す。(東北東京間連系線は流送設備等の作業停止を考慮して毎日に算出しているため、最小値とともに最大値も記載。)
 具体的な日々の運用容量は系統情報サービス参照
 注1) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

2018年度

連系線	潮流方向	断面	GW	益	年末年始
中部関西間連系線 ¹⁾	関西向	昼間帯	28(4)	89(4)	43(4)
		夜間帯	54(4)	92(4)	102(4)
北陸フェンス ¹⁾	北陸送電向	昼間帯	129(4) [70(4)]	181(2)	150(4)
		夜間帯	166(4) [70(4)]	181(2)	181(2)
中部北陸間連系設備	中部向	昼間帯	30(1)	30(1)	30(1)
		夜間帯	30(1)	30(1)	30(1)
北陸関西間連系線	関西向	昼間帯	129(4) [100(4)]	181(2)	150(4)
		夜間帯	166(4) [100(4)]	181(2)	181(2)
中国九州間連系線 ²⁾	中国向	昼間帯	171(4)	219(4)	181(4)
		夜間帯	164(4)	187(4)	184(4)
	九州向	昼間帯	0(4)	23(4)	8(4)
		夜間帯	23(4)	36(4)	40(4)

2019年度

連系線	潮流方向	断面	GW	益	年末年始
中部関西間連系線 ¹⁾	関西向	昼間帯	29(4)	90(4)	45(4)
		夜間帯	56(4)	93(4)	103(4)
北陸フェンス ¹⁾	北陸送電向	昼間帯	131(4)	181(2)	151(4)
		夜間帯	167(4)	181(2)	181(2)
中部北陸間連系設備	中部向	昼間帯	30(1)	30(1)	30(1)
		夜間帯	30(1)	30(1)	30(1)
北陸関西間連系線	関西向	昼間帯	131(4)	181(2)	151(4)
		夜間帯	167(4)	181(2)	181(2)
中国九州間連系線 ²⁾	中国向	昼間帯	171(4)	219(4)	181(4)
		夜間帯	164(4)	187(4)	184(4)
	九州向	昼間帯	1(4)	24(4)	9(4)
		夜間帯	24(4)	37(4)	41(4)

()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。
 1) 休日または特殊日明けの夜間帯のうち0:00~8:00は、休日または特殊日の夜間帯の運用容量とする。
 2) 連続休日(特殊日以外)または特殊日明けの夜間帯のうち0:00~8:00は、休日または特殊日の夜間帯の運用容量とする。
 特殊日として扱う日については、系統情報サービス「2018年度・2019年度連系線運用にかかわる平日・休日カレンダーについて」参照
 具体的な日々の運用容量は系統情報サービス参照



Ⅳ. 2020~2027年度の連系線の運用容量(長期計画)

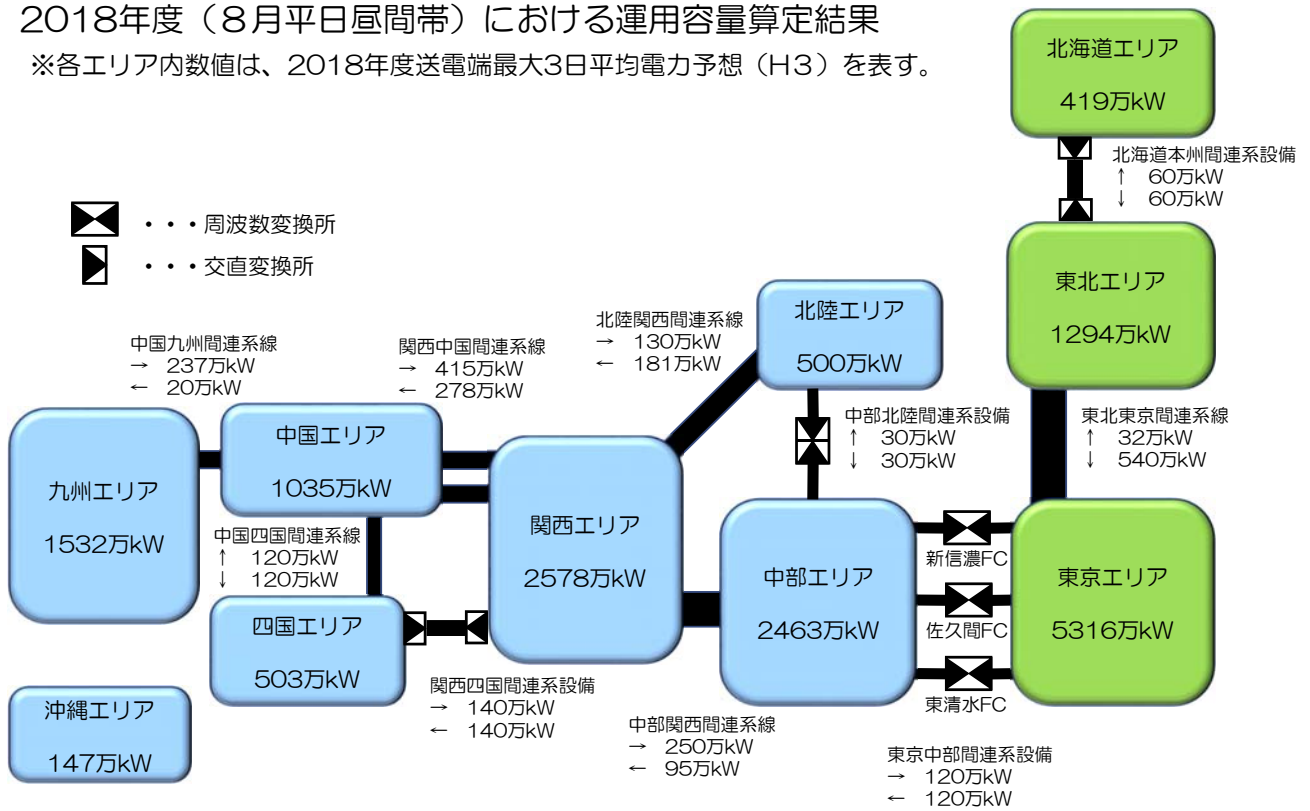
連系線	潮流方向	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
北海道本州間連系設備	北海道向	90(1)	90(1)	90(1)	90(1)	90(1)	90(1)	90(1)	90(1)
	東北向	90(1)	90(1)	90(1)	90(1)	90(1)	90(1)	90(1)	90(1)
東北東京間連系線	東北向	236 ¹⁾ (1)	236(1)	236(1)	236(1)	236(1)	236(1)	236(1)	236(1)
	東京向	553 ¹⁾ (2) [380(1)]	553(2) [380(1)]	553(2) [380(1)]	623 ²⁾ (2) [380(1)]	623(2) [380(1)]	623(2) [380(1)]	623(2) [380(1)]	623(2) ³⁾ [380(1)]
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(1)	210(1)	210(1)	210(1)	210(1)	210(1)	210(1)	210(1)
中部関西間連系線	中部向	250(4) [200(4)]	250(4) [200(4)]	250(4) [200(4)]	250(4) [200(4)]	250(4) [200(4)]	250(4) [200(4)]	250(4) [200(4)]	250(4) [200(4)]
	関西向	117(4) [35(4)]	117(4) [35(4)]	117(4) [35(4)]	117(4) [35(4)]	117(4) [35(4)]	117(4) [35(4)]	117(4) [35(4)]	117(4) [35(4)]
北陸フェンス	北陸受電向	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]
	北陸送電向	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]
	北陸向	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)
	中部向	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)	30(1)
北陸関西間連系線	北陸向	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]	130(4) [60(4)]
	関西向	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]	181(2) [138(4)]
関西中国間連系線	関西向	415(3)	415(3)	415(3)	415(3)	415(3)	415(3)	415(3)	415(3)
	中国向	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)	278(1)
関西四国間連系設備	関西向	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)
	四国向	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)	140(1)
中国四国間連系線	中国向	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)
	四国向	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)	120(1)
中国九州間連系線	中国向	278(1) [177(4)]	278(1) [177(4)]	278(1) [177(4)]	278(1) [177(4)]	278(1) [177(4)]	278(1) [177(4)]	278(1) [177(4)]	278(1) [177(4)]
	九州向	21(4) [0(4)]	21(4) [0(4)]	21(4) [0(4)]	21(4) [0(4)]	21(4) [0(4)]	21(4) [0(4)]	21(4) [0(4)]	21(4) [0(4)]

()内の数字は、最大需要時以外など空容量が小さくなると予想される値を示す。(東北東京間(東京向)は、2018年度における最小値を参考記載)
 ()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。
 1) 「東北東京間連系線に係る広域系統整備計画」(2017.2.3策定)にて示された短工期対策により、2020年度以降運用容量が増加する見込みであり、それを反映済み。
 2) 東北地内の電源増設により、2023年度から東京向きの運用容量が70万kW増加の見込み。
 3) 2027年第二連系線運轉後は、1028万kWになる見込み。



2018年度（8月平日昼間帯）における運用容量算定結果

※各エリア内数値は、2018年度送電端最大3日平均電力予想（H3）を表す。



2018～2027 年度の連系線の運用容量について(年間計画・長期計画)

本機関は、業務規程第 126 条第 3 項、第 4 項に基づき、2017 年 5 月に定めた検討条件に基づいた運用容量検討会の検討を踏まえ、2018～2027 年度の連系線の運用容量(年間計画・長期計画)を算出しましたので、別紙のとおり公表いたします。

別紙




[2018～2027 年度の連系線の運用容量\(年間計画・長期計画\)](#)  (00kB)

※別紙 添付略

※年間計画における日毎の運用容量等詳細は系統情報サービスをご覧ください。

[系統情報サービス](#) > [地域間連系線情報](#) > [連系線空容量参照](#) > [連系線空容量](#)
(年間計画:2018 年 3 月 15 日公表予定)

参考資料

- [運用容量算出における今年度の主な見直し事項](#)  (00kB)
- [別冊 各連系線の運用容量算出方法・結果](#)  (00kB)
- [設備停止時の運用容量について](#)  (00kB)

※参考資料 添付略

関連リンク

- [連系線の運用容量算出における検討条件について](#)(2017 年 5 月 31 日公表)
- [運用容量検討会の資料](#)
- 2018 年度・2019 年度連系線の運用にかかわる平日・休日カレンダーを系統情報サービスに掲載しています。
[系統情報サービス](#) > [その他情報](#) > [各種情報参照](#) > [各種情報\(カテゴリ:連系線等の運用\)](#)
情報 NO:OT2018000000000「2018 年度・2019 年度連系線運用にかかわる平日・休日カレンダーについて」
- 運用容量、マージン、作業計画を反映したグラフを系統情報サービスに掲載しています。
[系統情報サービス](#) > [その他情報](#) > [各種情報参照](#) > [各種情報\(カテゴリ:作業停止計画\)](#)
情報 NO:OT2018000000000「2018・2019 年度の年間作業停止計画について<連系線および連系線の運用容量に影響を与える件名>」